

九州関門地方支部 第 15 回就職支援検討委員会③

就職支援検討委員会

6 月 19 日、福岡市博多区のリファレンス駅東ビル貸会議室で、第 15 回就職支援検討委員会を開催し、船員養成教育機関の先生と九州関門地方支部管内が担当する各海運会社の担当者が出席した。

出席者の内訳は、船員養成教育機関 7 校から 10 人、海運会社 30 社から 47 人、九州運輸局海事振興部から 2 人、本組合から 17 人、合計 76 人が出席した。

船社側の意見（概要）

▽荷役作業は本船での OJT とならざるを得ない。インターンシップを受け入れているので参加いただきたい。会社訪問も柔軟にお受けしたい

▽生徒が就職先を選ぶ際のポイントと選定する時期を伺いたい

▽学校を訪問させていただければ、就航船舶の設備や船内環境など詳細を説明するよう対応したい

▽船員養成教育機関では、社会人としての心構えや諦めない心を育むとともに、安全と危険に関する知識・教育を深めてほしい

▽新入社員の早期離職を防ぐため、船内の人間関係を考慮した配乗に注意を払っている

▽船員養成教育機関には、外航船や内航船だけでなくタグボートなど港湾船の魅力発信をお願いしたい。出前授業など機会があれば積極的に参加させてほしい

▽船員養成教育機関からの意見として挙げられている部員の採用も積極的に受け入れたい。入社後に OJT による丁寧な教育を実施したい

これら学校側と船社側それぞれの意見・要望・課題などについて意見交換を行い、共通理解を深め、最後に松本順一水産部長が「本委員会を通じて、引き続き官学労使が協調し産業発展にまい進したい」と締めくくり、次年度以降も本委員会を継続することを確認し、就職支援検討委員会を終了した。

「海員だより」